

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	日本史（Japanese History）		
ナンバリングコード	E21511	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 教職科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 後期
必修・選択区分	選択・教職 教職関係科目（必修）：中学校教諭一種免許状（社会） ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	EK00151	クラス名	-
担当教員名	甘利 弘樹		
履修上の注意、 履修条件	授業には必ず出席すること。本授業は教職科目ですので、教員養成を前提に授業をします。そのため、時間厳守・連絡徹底など、社会人としてのマナーを求めます。遅刻する人・無断欠席する人・無断退室する人など、マナーを守れない人は履修しないでください。約束事やルールを守れない学生は、評価の対象外とします。なお、授業時の座席指定はありません。また、配布資料について、毎回の授業で持参してもらいます。欠席して配布資料を受け取れなかった人は、授業担当教員に自己申告して指示を受けてください。配布資料を紛失した場合の再配布はありません。その他、帝国書院編集部編『アドバンス中学歴史資料』（帝国書院、2020年、¥712）。日本史と外国史両方を受講する学生は、両授業で1冊持っていれば構いません。本書は絶版になっていますが、担当教員が第1回授業に持参するとき、購入してもらいます。その他に、板書・プリントを使用します。		
参考文献及び指定図書	授業中に指示します。		
関連科目	外国史		

○基本情報		
授業の目的	本授業は、中学校社会科免許取得の必修科目であることから、「中学校学習指導要領」に基づき、かつ社会科（歴史的分野）を教授していくために必要な知識を身に付け、実践してもらいます。そして中学校社会科の範囲における国家・地域や時代を学びながら、特に日本の歴史について理解し、知識を持つことによって、社会科教員としての資質能力を高めることが大きな目的です。また、本学のディプロマポリシーに対応して、文化・伝統についての幅広い視野を涵養すること、グループワーク等のアクティブ・ラーニングを通して、日本史の専門知識を活用するための技能とプレゼンテーション能力を育成すること、ならびに課題解決型授業をふまえ、課題解決において多角的かつ柔軟な思考力をもてることを目的とします。	
授業の概要	中学校社会科の範囲における日本の歴史について考察します。2017年に告示された最新の「中学校学習指導要領」では、「主体的・対話的で深い学び」が前提とされ、内容・内容の取り扱いに変化が見られるなど、授業方法も従来と異なる多様なものが必要となっています。本授業では、より有効な歴史の授業を行うために、我が国の歴史の動きを、最新の研究成果をもとに整理・分析し、併せて斬新かつ効果的とされる授業方法について考えていきます。なお、本授業では、反転授業・グループワーク・課題解決型学習・プレゼンテーション等を適宜取り入れたアクティブ・ラーニング型授業を実施します。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	甘利弘樹 本授業の日本史学修に関する実務経験として嘉悦女子中学校・高等学校において非常勤講師として高校日本史担当教員に従事。また、大分リハビリテーション専門学校において非常勤講師として医学史をテーマとした歴史学の授業担当教員に従事。	

○成績評価の指標		○成績評価基準（合計100点）		
到達目標の観点	到達目標	テスト （期末試験・中間確	提出物 （レポート・作品等）	無形成果 （発表・その他）
【関心・意欲・態度】	歴史学・歴史教育に対する関心・意欲を高めた上で、教員として使命を持って授業を担当できる態度を形成する。		10点	5点
【知識・理解】	中学校社会科の授業を遂行するために必要な日本の歴史の知識（高等学校日本史程度）を身に付けている。日本の歴史を教授するために必要な授業方法を理解している。	40点	10点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	教材となる様々な資料を適切に収集・分析し、有効な歴史の授業を実施できる。		10点	5点
【思考・判断・創造】	日本の歴史を多面的・多角的視点から教授できるようになるとともに、より効果的な授業を行うための工夫ができる。		10点	5点

○成績評価の補足（具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法）
原則として、毎回の授業の冒頭に、予習した内容をまとめた小レポートを、提出してもらいます。また、毎回の授業の最後に、習得した知識・考え方等を小レポートにまとめ、提出してもらいます。本レポートによって出席に代えるとともに、中学校社会科の授業を遂行するために必要な能力・姿勢が形成されたかをみます。なお、提出されたレポートは、次回以降の授業で返却します。 授業中に担当教員から出された質問に対して、必ず回答をしてもらいます。回答の優れた学生には、相応の加点をすることがあります。

○その他

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	日本史（Japanese History）	授業コード	EK00151
	担当教員	甘利 弘樹		
学修内容				
1. オリエンテーション				
日本史を学ぶ意義、中学校学習指導要領の内容、授業の進め方など教員になることの職業意識について説明します。				
予習	「中学校学習指導要領・社会」の「歴史的分野」の部分を読み、理解しておく。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における歴史の授業で教授すべき内容を検討し、まとめる。			約2時間
2. 古代の日本(1)				
反転授業・グループワークを通して、日本人の祖先が登場した時期から飛鳥時代までの社会の変化について学びます。				
予習	教科書pp.4-5、pp.12-21の内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本古代史の授業で教授すべき内容をまとめる。			約2時間
3. 古代の日本(2)				
反転授業を通して、奈良時代の社会と文化について学びます。				
予習	教科書pp.22-31を読み、内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本古代史の授業で教授すべき内容をまとめる。			約2時間
4. 古代の日本(3)				
反転授業を通して、平安時代の社会の変化について学びます。				
予習	教科書pp.32-45を読み、内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本古代史の授業で教授すべき内容をまとめる。			約2時間
5. 中世の日本(1)				
反転授業・グループワークを通して、鎌倉時代の政治と社会について学びます。				
予習	教科書pp.46-53を読み、内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本中世史の授業で教授すべき内容をまとめる。			約2時間
6. 中世の日本(2)				
反転授業・グループワークを通して、室町時代の社会と文化について学びます。				
予習	教科書pp.54-63を読み、内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本中世史の授業で教授すべき内容をまとめる。			約2時間
7. 中世の日本(3)				
反転授業・グループワークを通して、戦国時代・安土桃山時代について学びます。				
予習	教科書pp.64-67、pp.76-83の内容を理解するとともに、当該ページにある課題に対する回答を作成する。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本中世史の授業で教授すべき内容をまとめる。			約2時間
8. 近世の日本(1)				
反転授業・グループワークを通して、江戸時代前期の政治・経済・社会について学びます。				
予習	教科書pp.84-97を読み、内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。			約2時間
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本近世史の授業で教授すべき内容をまとめる。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	日本史（Japanese History） 甘利 弘樹	授業コード EK00151
学修内容			
9. 近世の日本(2) 反転授業・グループワークを通して、江戸時代におけるターニングポイントである元禄期から天保期までについて学びます。			
予習	教科書pp.98-109を読み、内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。	約2時間	
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本近世史の授業で教授すべき内容をまとめる。	約2時間	
10. 近代移行期の日本 反転授業・グループワークを通して、江戸時代後期の文化及び幕府の滅亡と新政府成立について学びます。			
予習	教科書pp.110-115、pp.124-135の内容を理解するとともに、当該ページの課題に対する回答を作成する。	約2時間	
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における近代移行期の日本の授業で教授すべき内容をまと	約2時間	
11. 近代の日本(1) 反転授業を通して、明治政府の内政・外交の展開について学びます。			
予習	教科書pp.136-151を読み、内容を理解するとともに、当該ページに書かれた課題に対する回答を作成する。	約2時間	
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本近代史の授業で教授すべき内容をまとめる。	約2時間	
12. 近代の日本(2) 反転授業を通して、明治時代～大正時代の産業と社会について学びます。			
予習	教科書pp.152-157、pp.166-173の内容を理解するとともに、当該ページの課題に対する回答を作成する。	約2時間	
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本近代史の授業で教授すべき内容をまとめる。	約2時間	
13. 近代から現代へと推移する日本 反転授業・グループワークを通して、昭和前期の戦争から民主化へと動いた日本について学びます。			
予習	教科書pp.176-191を読み、内容を理解するとともに、当該ページにある課題に対する回答を作成する。	約2時間	
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における現代移行期の日本の授業で教授すべき内容をまと	約2時間	
14. 現代の日本(1) 反転授業を通して、戦後日本の高度経済成長期に至るまでのプロセスを学びます。			
予習	教科書pp.192-199を読み、内容を理解するとともに、当該ページにある課題に対する回答を作成する。	約2時間	
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本現代史の授業で教授すべき内容をまとめる。	約2時間	
15. 現代の日本(2) 反転授業・グループワークを通して、石油危機から現在までの間に変動した日本について学びます。			
予習	教科書pp.200-205を読み、内容を理解するとともに、当該ページの課題に対する回答を作成する。	約2時間	
復習	予習の内容及び授業の内容を振り返り、中学校における日本現代史の授業で教授すべき内容をまとめる。	約2時間	
16. 期末試験			
予習			
復習			